

地 域 連 携

だ よ り

彦根市立病院

〒522-8539 滋賀県彦根市八坂町1882番地

TEL : 0749-22-6050 (代)

問い合わせ先 彦根市立病院 地域医療連携室

TEL : 0749-22-6053 FAX : 0749-22-6093

いつもありがとうございます

感謝です!!
おかげさまで
第7波を乗り切れました

院長代理

中野 顯

なかの

あきら



わが国において最初の新型コロナウイルス感染症患者が確認された令和2年1月15日からもうすぐ3年となりますが、新型コロナウイルス感染症はいまだに収束が見通せない状況です。なかでも2022年7月から始まったオミクロン株感染による第7波は我々の想像をはるかに超える大流行となりました。感染者数が20万人を超える日も多く、当院にも1日150人をこえる発熱患者が連日受診しました。発熱患者の時間的な分散を目的として整理券を配布しましたが、整理券を受け取るために早朝から

列ができるといった状況となりました。スタッフにも陽性者・濃厚接触者が多数発生し、やむを得ず入院制限を行いました。検査キットも入手困難となり、検査を求めて軽症例が時間外救急に殺到する事態となり、救急診療に大きな支障が発生したため時間外の抗原検査を中止しました。いずれも苦渋の決断でしたが、これらの対応によりなんとか第7波を乗り切ることができました。医師会の先生には、多大なご理解とご協力を頂きましたことを本当に感謝申し上げます。

もしも冬に第8波がやってきたら…

11
2022

◆インフルエンザとの同時流行?…

さて、専門家の見解では、規模は不明ながら、第8波が予想されています。第7波の経験から、第8波に向けての課題もさまざま見えてきましたが、**最も重要な課題は外来診療**だと思います。

現在、診療検査医療機関以外の診療所の多くは発熱患者の診療を控えているため、**第8波がインフルエンザとの同時流行**になると、発熱患者が第7波以上に特定の診療・検査医療機関に集中する可能性があります。

さらに

発熱患者は自らインフルエンザとCOVID-19との鑑別はできないため、自主的な検査ではなく医療機関を受診する可能性が高くなります。

また

診療検査医療機関は、かかりつけ患者に新型コロナワクチン接種及びインフルエンザワクチン接種の両方を実施することになるため、結果的に新型コロナとインフルエンザに対する診療・ワクチンをすべて担うこととなり、**発熱外来を含めた外来医療のさらなる逼迫**を危惧しています。



有熱外来



第7波ピーク時
連日
100~150人以上



インフルエンザ



新型コロナ



これまで以上にご協力を賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます！

この課題の解決は非常に困難ですが、病院、医師会、そして行政及び地域住民の皆で協力し、この湖東地域におけるウイズコロナ時代の地域医療提供体制を創りあげるほかないと考えております。

中野 顯

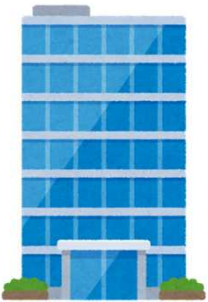
新型コロナウイルス… ～感染したら入院できるの?～

◆新型コロナウイルス感染症専用病棟のしくみ…

2020年4月20日から、当院では新型コロナウイルス感染症専用病棟を開設しています。この新型コロナウイルス感染症専用病棟の病床数については、滋賀県から保健・医療提供体制確保計画に基づき、**感染状況に応じたフェーズ毎に要請**があります。2022年9月30日時点においては、緊急フェーズとして**40床**の病床数を確保している状況です。

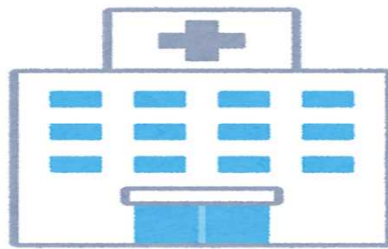


感染管理認定看護師
谷 久弥



滋賀県COVID-19
災害コントロールセンター

各医療機関で新型コロナウイルス感染症患者の診断がされてから療養先決定までの対応は、**滋賀県COVID-19災害コントロールセンターによって一元管理**をされているため、湖東保健医療圏以外に居住している方が当院へ入院される場合もあります。



彦根市立病院

新型コロナウイルス感染症専用病棟

第7波での急激な患者増加に伴い、当院の専用病棟でも、8月中旬から9月上旬にかけては連日90%前後の病床使用率となりました。

当院も含め県内のいたるところで新型コロナウイルス感染症のクラスター事例が発生していた時期とも重なっており、職員の欠員等により院内全体として**医療を継続するにあたり危機的な状況**でしたが、職員が協力し合い何とか乗り切ることができました。

◆第8波がやってくる前に何が必要?…

今までのように一部の医療機関だけが主となって検査・診療を行うのではなく、機能性に応じた役割分担をしながら地域全体で新型コロナウイルス感染症患者を診ていくという体制を整えることが必要だと思います。

新型コロナウイルス感染症患者の増加によって、个人防护具や検査キットの供給不足が生じることも想定し、診療に支障がでないように物品の確保をしておくことも大切です。



インフルエンザワクチン
と新型コロナワクチン

可能な限りワクチン接種をしていただき、両疾患の感染予防および重症化リスクを減らすということも、各々が気を付けなければなりません。

当院は引き続き、滋賀県から指定を受けた重点医療機関としての役割と、彦根市内にある新型コロナウイルス感染症専用宿泊療養施設のバックアップ病院としての役割を果たすべく、日々努めてまいります。

**今後とも、
ご理解とご協力を
よろしくお願い申し上げます！**



谷 久弥

地域連携センター次長 ～10月から交代しました～

◆ よろしくお願ひします…



整形外科部長
人工関節センター長

角田 恒
すみだ ひさし

この10月より宮澤先生の後任として地域連携センター次長となりました角田恒です。私は2013年4月彦根市立病院に赴任、2014年には岐阜大学整形外科秋山教授を顧問に迎え人工関節センターを開設させていただきました。それまで専門医がいなかったこともあり、開設前は彦根市民の患者さんの多くが他院で人工関節治療を受けてこられました。私としては赴任して以来、彦根市立病院で働くからには彦根市民の患者さんは、なんとか当院でよくなっていたきたいという思いを持っており、センター開設後、コロナ前には市民公開講座を毎年行い、また整形外科の診療所の先生方を中心に地域連携を深めさせていただいてきました。おかげさまで2020年には100件を超える人工関節手術を行うまでとなり、少しずつ地域に貢献できるようになってきたのが現状です。湖東地域の医療に関わる全ての先生方が当院と患者さんを繋ぐ架け橋となっていたいただいたおかげで、ここまで人工関節センターは歩んでこれたと感謝するとともに地域連携の大切さを実感してきました。まだまだ役不足ではありますが彦根市立病院で勤務して節目となる10年目にこのような役割をいただきましたので、普段の業務としては患者さんの骨と骨とを繋ぐ関節の動きが円滑となるように治療しつつ、一方で診療所の先生や他院の先生方と当院との繋がり、連携が円滑となるよう微力ではありますが尽力させていただきます。

◆ ありがとうございます…



循環器内科部長

宮澤 豪
みやざわ つよし

この度、地域連携センター次長の役を、退任することとなりました彦根市立病院循環器内科宮澤豪です。2018年4月に地域連携センターに配属され、病病連携や病診連携の重要性のみでなく、地域との繋がりが如何に重要かを理解することができ、そのために少しでも力になればと考えてこの仕事をさせて頂きました。非力で皆さまにご迷惑をおかけしたところも多分にあると思いますが、これからもこの経験を生かして、地域医療に貢献していきたいと考えております。これまで本当にありがとうございました。